



シュレーゲルアオガエル号

私が子どもだった頃 大道町内会 長島太郎

私の家は、宝樹院^{ほうじゅいん}という真言宗^{しんごんしゅう}のお寺の石段^{いしだん}を降りたところにあります。そんな関係で「てらのした」という屋号^{やごう}で呼ばれています。大道では昔から、「わきのやと」とか、「みょうど」などの屋号で呼び合っていました。昔は、近所付き合^{さか}いも今より盛^{せい}んでしたし、同じ姓が多かったので、このように、あだ名のようなもので呼びあっていたのでしょう。

私は、大正^{たいしゅう}5年に、大道に生まれました。これから、私が子どもだった頃^{こころ}の様子をお話したいと思います。今は、大道小学校や高舟台小学校、六浦小学校などのたくさんの小学校がありますが、私が小さい頃は、この辺には、三分学校という学校しかありませんでした。三分学校は六浦の交番^{こうばん}の近くの北辰神社^{ほくしん}の横の道をまっすぐ行って、侍従川を渡った右側にありました。私が小学1年に入学した年の9月に関東大震災という大きな地震がありまして、学校は、跡形^{あとがた}もなく壊^{こわ}れてしまいました。



シュレーゲルアオガエル

学名: *Rhacophorus schlegelii*

体長: 30~43mm 40~55mm

分布: 本州、四国、九州、香岐、平戸島、
五島列島

体色は鮮やかな黄緑色か緑色(暗褐色に変色することも)で稀に背中に黄色い斑点がある。指に吸盤を持ち、ニホンアマガエルと似ているが、鼻先が伸びており、鼻から側面に褐色の線がない。4~6月頃、田んぼの畦の土の中から「コロロ...コロロ...」と、聞こえてくるがなかなか姿を現さない。卵はメレンゲ状の泡の中に100~660個の卵を産む。名前はオランダ人のヘルマン・シュレーゲルに由来する。
解説: 山田 陽治

三分学校に通っていた子どもたちは、宝樹院、^{じょうぎょうじ}上行寺、^{でいぎゅうあん}泥牛庵などのお寺に分かれて勉強を続けました。校舎が新しく建て替えられて、学校に通えるようになるまでに3年もかかりました。

そのころの金沢の地形は、今とはまるで違っていて、六浦から室の木にかけての場所や柳町のあたりは全て海で広い^{わん}湾になっていました。その三分学校から東側の地域は、広い砂浜になっていて、海の水が、ひたひたと押し寄せるような場所でした。上行寺の前の道路を渡ったところのコンビニの近くには、今では家がたくさん建っていますが、このあたりは、昔は砂浜で、塩を作る場所でした。今では、塩場住宅という地名になっています。今の国道16号のあたりは松林になっていて、そのあたりからずっと砂浜が続いていました。松林には^{すずめ}鈴虫がたくさんいて、よく^{つか}捕まえに行きました。この砂浜で、くみ上げた海水を舟に乗せて侍従川の上流に運び、それぞれの家の軒先で大きなナベで煮詰めて塩を作っていました。

侍従川は、^{あし}葦や竹が生えた自然のままの川で、地面からすぐの所に水があり、今よりもだいぶ水量がありました。^{まんちよう}満潮の時には、^{さんのお}山王橋のあたりまで、潮が上がってきました。かなり深く、子どもたちが川に飛び込んで水遊びをすることも出来ました。侍従川は、田んぼに水を引いたり、生活用水に使われていただけでなく、いろいろな生活物資を運ぶ交通手段にも使われていました。私が最も印象に残っているのは、^こ肥やし舟です。昔のトイレは、今のように^{すいせん}水洗ではなく、^{べんき}便器の下に^{あな}穴を掘って^{ふんによう}糞尿を溜めて、いっぱいになると、それをくみ上げるというような^{げんしてき}原始的なものでした。その^{ふんによう}糞尿を肥やしと言っていました。肥やし舟は、くみ上げた糞尿を上流の大道に運んでいました。大道には、^{こうち}広い耕地に畑や田んぼがありましたので、その^{ひりよう}肥料に使っていました。

今の大道郵便局のあたりに、^{おおぜき}大堰と呼ばれる大きな堰がありました。侍従川の^{かつすいき}湯水期に田んぼに水を入れるために板で川を、せき止めて堰を作っていました。広さは5～6メートル四方もあり、深さが2メートルもありました。そこで泳ぎの練習をやりました。大堰には、フナやどじょう、ウナギがたくさんいました。ウナギとりには、長い棒の先に^{えさ}餌の付いた糸をつないだ特別な道具を使いました。ウナギの棲んでいる穴のなかに餌と針を入れると、おもしろいように大きなウナギが^つ釣れました。釣ったウナギは、家で料理してもらって食べました。また、侍従川にはホタルがたくさんいて、^{かや}蚊帳の中にホタルを放して遊んだものです。



私の家の近くの^{どうやま}堂山と呼ばれる山に^{どうくつ}洞窟が掘ってあり、その先に大きな^{たてあな}縦穴がありました。最近には行っていませんが今でもあると思います。ハシゴを使わなければ下りられないほど深い穴で、底は6畳くらいの広さがありました。何のために掘られた穴なのかは分かりませんが、当時は、何にも使われていなくて子どもたちの遊び場になっていました。子どもたちは、この

場所をそこめんと呼んでいました。当時、そこめんのあった堂山のまわりは、荒れ放題で、廃寺になった常福寺の墓石などが倒れて散乱していました。堂山の近所で、あまりに病人が続けて出るので、宝樹院の住職に頼んで供養してもらいました。墓石もきれいに直して、毎日、掃除をしました。それから、病人が出ることもなくなりました。



常福寺の墓石

「そこめん」の入り口

宝樹院の階段を降りて車道に出る所に関所の跡がありました。今では、車庫になっていますが、私が小さな頃は、四角い窪地になっていて、関所の立て札が立っていました。昔は金沢から鎌倉に行く人たちからお金をとって、お寺の修繕などに使っていたと言われています。

若かった頃の話ですが、私は戦時中、技術者として横須賀海軍工廠という軍事工場に勤めていました。戦争が終わって階級社会から開放されたとき、初めて人間というものが見えました。人は本来誰でも平等で、それぞれが何かしらの得意分野を持っているのだと悟りました。前向きな気持ちで、その得意分野を伸ばすために努力をし、活かしていくことが大切だと思います。

大道は豊かな自然環境が今でもたくさん残っています。それが、この土地の人の特徴である穏やかな人格を作っていると思います。また、大道には関所跡があり、近くには金沢八景や金沢文庫の称名寺など多くの史跡があります。横浜というと都会的で賑やかなイメージがありますが、こういう静かな場所も横浜の中に残していきたいと思います。

12月定例クリーンアップ

【活動報告その1】

12月26日(日) 9:00～11:30

於:青木橋～里野橋、二の橋～長島橋 記)細川一雄

参加者:相川澄夫、長野政治、長橋輝明、西澤博厚、村田章夫、角田繁、八木場紀元、石塚正夫、高橋のりみ、廣瀬隆夫、河本充雄、山田陽治、埜田匡、石松みさき、大橋康顕、大橋広太郎、曾根裕士、深沢大地、細川一雄(19名)

今年最後のクリーンアップですが、多くの人に参加してくれました。当日は最低気温2℃で風が強く、寒さが身に堪えません。皆さん十分な防寒対策をして参加されたようです。

今回は19名と大人数でしかも子ども達が多く参加してくれましたので、今まで草刈りができなかった上流域の青木橋～里野橋間と中流域の二の橋～山王橋間の草刈り・ゴミ拾いを行いました。

長島橋～二の橋(ちとせ園横)間は治水事務所が業者に委託して行った草刈りが終わっていないため、今回大人数が参加してくれた機会を利用し、私たちでできる範囲(二の橋～第二山王橋)の草刈りを行いました。すっかり枯れた草は非常に軽くなっていて、束ねると持ち運びがとても楽でした。

今回は、車が無い為、次回に引き上げ易いように草を束ねて橋の下に立てて置いておきました。

また、今回のゴミの中にキックボードと自転車に付ける幼児用の椅子がありました。川をゴミ箱と考えている人が相変わらず多い(それとも同じ人間?)のに腹が立ちます。

今年最後のクリーンアップという事で、作業を早めに打ち切り、炊き出しの甘酒をご馳走になりました。寒い季節に暖かい甘酒は好評で皆さんおいしく頂いたようです(大人は甘酒にお酒を追加して飲んでいたようですが・・・)。ありがとうございました。



ネイチャークラフト教室

【活動報告その2】

1月9日(日) 9:00 ~

記) 山田陽治

1/9(日)「ネイチャークラフト教室～つるでかご作り～」が行われました。
2011年最初の活動です。



侍従川の源流がある朝比奈の森で、午前中はつるを採取
...子どもたちは、つるにぶらさがりターザン遊びに夢中...

採れたつるは、アケビ、オオツツラフジ、クス、フジ、テイカカズラでした。

午後から、大道コミュニティハウスでかご作り。



みんな、思い思いの...そして、それぞれの個性のある、たった一つだけの自分のかごができました。



かご作りに向いているつる...アケビ、フジ、クズ、アオツツラフジ、オオツツラフジ、スイカズラ、テイカカズラ、サネカズラ、ヤナギ等

〔たて芯(しん)〕

かごの骨にあたるつる

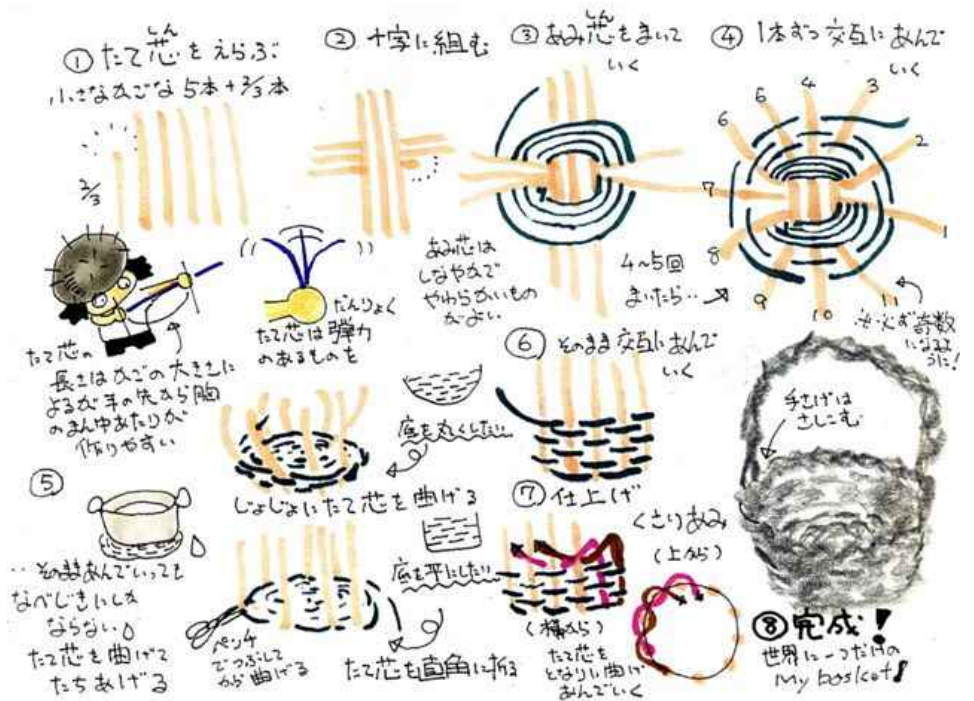
〔編み芯(しん)〕

編んでいくつる

今回は基本である

「十字編み」を

紹介します。

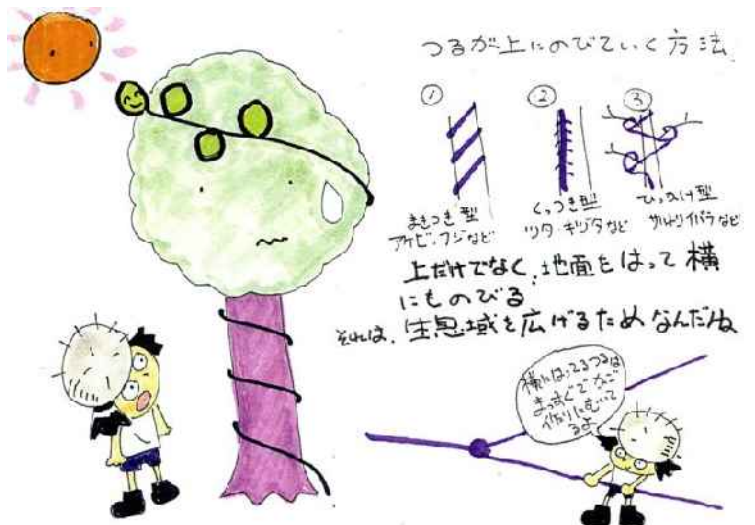


「つるが伸びて行くわけ」

森の中で日光を浴びるためには周りの木よりも大きくなると！ そのためには体 (= 幹) をしっかりとさせなくちゃならないのだけど、そこまで育つのは大変！！...で、つる植物は体を大きく、太く、頑丈にするエネルギーは無駄だと考え(考えたわけじゃないんだらうけど... f^_^;) そのままじゃしっかり立てなくても、まわりの木に絡まって上へ上へと伸びて日光を浴びる作戦に出たわけですね。

賢い？ ずるい？

「つる植物の役割と害」



森を守るためには適度につるをとることも大切！

1月定例クリーンアップ

【活動報告その3】

1月23日(日) 9:00~11:30

於:朝比奈橋~大道橋、二の橋~長島橋、大道東橋周辺 記)細川一雄

参加者:長野政治、西澤博厚、角田繁、八木場紀元、外川忠志、廣瀬隆夫、廣田結衣、
細川一雄(8名)

2011年最初のクリーンアップですが、相変わらず寒さが厳しい中、正月気分も既に消えてしまった状態で作業に向かいます。

この季節、草は生えませんが、ゴミ拾いと、葦船用の葦刈り(大道橋周辺に残された葦)を行いました。私と、廣田結衣ちゃんは上流域のゴミ拾いを担当。里野橋下流の駐車場から川に入り上流の朝比奈橋に向かってゴミ拾いを行いました。正月開けのためか予想以上にゴミの量が多く、しばらくすると二人のゴミ袋は一杯になってしまいました。廣田結衣ちゃんは、私以上に重くなったゴミ袋を持ちながら一生懸命ゴミを拾ってくれました。大道橋に付く頃は二人のゴミ袋はぎゅうぎゅうに詰め込まれた状態になっていました。



途中外川さんが参加してくれましたので、先月上げられず、橋のたもとにまとめて干しておいた草を上げ、外川さんのトラックで県営住宅跡地にもって行きました。トラックの応援は毎回助かります。ありがとうございます。

他のメンバー5名は、ちとせ園から川に入りゴミ拾いと残った草を刈りながら下流に向かいます。同じように草を上げ、県営住宅跡地に搬送しました。また、大道東橋周辺に残っていた葦船用の葦を刈り取り大道小学校に運びます。大道小学校からも若い先生が手伝いに来てくれ、作業は大分はかどりました。



今回のクリーンアップでは、コンビニ袋に入ったゴミが多く見られました。今まではお菓子の箱やビニールの様なものが多かったのですが正月に溜まったゴミを捨てたのかもしれない(確信犯?)。里野橋下流の橋の横に駐車場がある場所ではタバコの吸い殻がまとまって落ちていました。灰皿から川に捨てた?。

葦船学校

【活動報告その4】

1月21日(金)～2月6日(日)

共催:横浜市立大道小学校

記)押田 健



のこらず
かりとれよ!



あしぶね つくるぞ

1月21日(金)

大道小学校の5年生と
生き物たんけんクラブの児童が
葦刈りをしました。
あとは、とにかく選別作業に没頭...



はじめてだけど
こりゃあ たいへん



こうするんだよ
みんな みて みて





わっしょい わっしょい!



2月5日(土)・6日(日)
侍従丸とアドベンチャー号が完成しました！春の乗船会が楽しみです！



うわー オレをねらうな~



侍従丸 ここに 完成!

トピックス

1/10(祝) 第26回横浜の水辺と緑を考える子ども会議
実行委員会が開かれる(於 金沢自然公園ののほな館)。
実行委員長に米塚友理ちゃん、副委員長に石黒勇次君と
長崎光則君 参加...重田、石松、長崎、深沢、尾池、
大橋、石黒、米塚、山下、中野、小林、成島、佐野、山田



1/29(土),30(日) 葦笛教室が開かれる(於 大道コミュニティハウス)。

講師: 黒川史明氏、西川雅規氏(葦笛&葦船職人)

2/11(祝) 第26回横浜の水辺と緑を考える子ども会議
実行委員会が開かれる(於 金沢自然公園ののほな館)。
参加...重田、石松、長崎、深沢、尾池、石黒、米塚、
島村、成島、佐野、山田



2/12(土) 横浜みどりアップ シンポジウム

「見つけよう! 緑のライフスタイル~フィールドのある
くらしの提案」(主催: 横浜市環境創造局)にパネリスト
として山田が出席(於 港北公会堂)。



基調講演...川端裕人氏(小説家)

パネラー...川端裕人氏、秋山幸也氏(相模原市立博物館)、山田陽治

2/17(木) RAC(川に学ぶ体験活動協議会)の全国大会に向けて「流域連携・よこはま」の会
合に瀧本、山田が出席。

RAC全国大会2011年は9/17~19 横浜で開催予定です。

2/26(土) 子ども会議冊子作り(於 大道コミュニティハウス)

参加...阿部、重田、石松、長崎、深沢、尾池、石渡、
石黒、島村、成島、佐野、山田

3/21(祝) JCNの番組「こどもかいぎ」撮影中止

3/27(日) 「横浜の水辺と緑を考える子ども会議」

(於 金沢自然公園ののほな館)は延期になりました。

(財)日本生態系協会からの絶滅危惧種に対するアンケートに返答...ホトケドジョウをあげまし
た(山田が対応)。



「かまくらちょう」No.78 Jun.2011(三浦昆虫研究会発行)に佐野・山田が侍従川で“コオイムシを
採集”の報文を寄稿。

餅つき < 大道村の完成「お祝いの式」 >

【活動報告その5】

2月13日(日) 9:00 ~ 12:00

主催: 大道小学校

記) 寺尾 勝廣

2月13日(日)大道村の完成「お祝いの式」が開催されました。線(川)から面(地域)への展開おめでとうございます。

当日は、完成までの期間の間に携わった上総掘りによる井戸掘りを教授して下さった方々、地質の専門家を始め、一掘り一掘りを実施した方々、300名以上が近隣・遠方を問わず参加していました。

その皆さんにつきたてのお餅が振る舞われ、お祝いに来て下さった方々の胃袋を満たしていました。この餅つきには侍従会の面々も一緒に行い、特に写真に写っている山田さんは温厚な顔に似合わず臼を破壊する勢いのフルパワーで突きまくっていました。



侍従川流域 生き物発見記録

12/26 笠貝の仲間 種名不明

侍従川初発見!

...汐見橋(石松、深沢、山田特派員)

12/28 ポラの大群...ちとせ園前(鶴岡さん)

12/30 カキを入れた籠の中にホソウミニナ 1、
アラムシロガイ 25、アカニシ 1、マハゼ 3、

ケフサイソガニ の右鋏脚...雪見人道橋(山田特派員)

2/17 ヤマアカガエルの産卵 卵塊2...大道小学校(竹内特派員)

2/17 ヤマアカガエルの産卵 卵塊10...朝比奈小学校(山田特派員)

2/22 ふきのとう(寺尾特派員)



実行委員長 廣瀬さんから

侍従会の活動状況や侍従川の様子を紹介するツイッターのアカウントを作りました。出来るだけリアルタイムな情報を流して行こうと思っています。

侍従会のHPにリンクがあります。<http://jijyukai.web.fc2.com/>

ふるさと大道村のツイッターも ありますので、そちらもご覧ください。

<http://daidomura.web.fc2.com/>

2月定例クリーンアップ

【活動報告その6】

2月27日(日) 9:00～12:00

於:大道中学校、大道橋～第二山王橋間 記)細川一雄

参加者:長野政治、長橋輝明、西澤博厚、角田繁、八木場紀元、村田章夫、成瀬さん、
外川忠志、高橋のりみ、廣瀬隆夫、河本充雄、山田陽治、瀧本宏昭、佐野真吾、
成島みゆき、鈴木政裕、金野光流、金子英司、古寺航輝、安達大介、中島勇歩、
戸井田和輝、石黒勇次、徳武風樹、尾池実、長崎光則、深沢大地、細川一雄
(計27名)

昨年は、あいにくの雨でできなかった大道中学のグランド横の大道溪谷の枝打ちを行いました。蛍の雄が高く飛翔し、雌の蛍に存在をアピールするために上空に伸びている枝と青木や八つ手などの樹を伐採しました。

当日9時、鋸や高枝切り、剪定バサミなどを持ってちとせ園に集合したメンバーと、直接大道中学校に集合したメンバーが合流し、山田さんから当日の作業の概要説明をしてもらって作業を開始しました。

鋸で太い枝を切ったり、高枝切りで高い位置の枝を次々と切り落とします。切り取った枝をグランド脇で剪定バサミや鋸を使って細かい枝を切り落とし、長さ60cmほどの棒状にし、どんどん積み重ねていきます。太く長い枝は「杭」に、少し細い枝は「粗朶」を作る材料にするため夫々紐で束ねていきます。

10時20分頃、急遽飲み物を買ってきて休憩にし、約20分後に作業を再開しました。残り時間が約1時間しかないため後半の作業では、新規の枝打ちは中止し、今まで切り取った枝の整理のみにしました。整理が終わった小枝は崖の奥に積んで置き、グランドを竹ぼうきで清掃し、枝打ち作業は終了しました。

また、作業終了前に、数人の大人で侍従川の大道橋からちとせ園に向かうまでの間のゴミを拾ってもらいました。



ふるさと大道村

大道村完成のお祝い式に多数ご出席ありがとうございました。

のべ300人以上の人が集い、盛大に完成を祝うことができました。



お茶で乾杯！



ふるさと大道村が完成しました。これまで、100日を越える活動日数、のべ2000人を超える多くの人々が村づくりに携わりました。現在の中学1年生らが構想を膨らませてから約2年間・・・子どもたちの夢がみんなの力で現実になりました。大道村は、完成しましたが、「希望の井戸」が掘りあがるまでは「よい水、よい人、よいまちづくり」をめざしてこれからも、井戸掘りは続いていきます。みんなで力を合わせてこの村をさらによりよい村にしていきたいと思います。ふるさと侍従川に親しむ会会員の皆さま、ご協力ありがとうございました。

侍従川生き物図鑑 No.11

～ ネコハエトリ ～

(ハエトリグモ科)

学名: *Carrhotus xanthogramma*

体長: 7～8ミリ

見られる場所: 流域ほぼ全域

流域沿いの川岸の草むら、公園、山地の草原

に生息するハエトリグモ科の小さなクモで、

とでは大きさが色が違い別種と違って

しまうほど、まったく姿が違います。

東京湾沿岸の神奈川県、千葉県では

このクモ同士を戦わせる“ホンチ”と

いう遊びが古来からあるようです。



上から見た



より大きい

琉球生き物紀行 ～ 美ら島の生き物たち～

～ ハブ ～

(クサリヘビ科)

学名: *Protobothrops flavoviridis*

前翅長: 100～200センチ

分布: 奄美諸島(喜界島、沖永良部島、与論島を除く)、

沖縄諸島(伊是名島、粟国島を除く)

言わずと知れた日本一危険な毒ヘビで、他のハブと区別するため現地では金ハブまたは本ハブなどと呼ばれています。咬まれるとその部分から毒により筋肉組織が破壊され、除々に壊死していき、血清による処置が遅れれば死に至ります。万が一助かっても手や足の神経が麻痺したままの障害が残ることが多いようです。ハブの鼻の横には1対のピット器官という孔がありこれによって獲物の体温を感じ取り、位置を特定して襲い掛かります。近年は駆除や乱獲が原因で数が減ってきており、生息地を一晩歩き回って一頭みれるかどうかといった感じです。撮影は命がけで、あまりの怖さにハブがいた山にはしばらく通っていません。



沖縄県大宜味村 2010.3.1



こちらの位置を探り、攻撃の機会を伺っている

監修: 熊井(沖縄在住)

虫のきょういく座談会 ~絵を描いて学ぶ生き物のかたち~

参加者:山田・成島・東浦・坂巻・西野・佐野

今回の会場は平塚市にある東海大学前のガストである。メンバーは筆者佐野の大学仲間である東浦・坂巻(前座談会参加)・西野および、侍従会の山田・成島・佐野だ。この集まりの目的は3月におこなわれる子ども会議の打ち合わせであった。しかし、一同はなぜか、生き物をお題とした“お絵描き大会”を始めてしまい...、その切り口を見極めた成島氏の提案から今回の座談会は開幕する。

成島:「じゃあこの場を借りて前代未聞のお絵描き座談会しようか?(笑)」

佐野:「おお! いいじゃん!(笑)どんな感じで進めようか?(笑)」

すると場の空気を素早く察した山田氏がすかさず切り込んだ。

山田:「春が近づいて参りましたなあ~! そうだ“春”と言えば“ヒキガエル”だよね! みんなでヒキガエルの絵を描いてみよあ!!(笑)」

強引な切り込みだ。

坂巻:「え! ?...私描けないですよ...。カエルにすらならないかも...」

山田:「描けなくても描くんだよ!(笑)」

本当に強引な切り込みである。こうして“お絵描きタイム”が始まった。それぞれブツブツ独り言を言いながら真剣に描いている。

西野:「ヤバイ! カエルの指の本数が分からない... 普段ちゃんと観察していない証拠だ...」

山田:「おおっと(笑)西野くんそれは基本だぞ! でもその特徴を気にするところはさすがだ! ...。...あっ! サノシン(佐野)! 今の会話はちゃんと載せといてね! 大事な



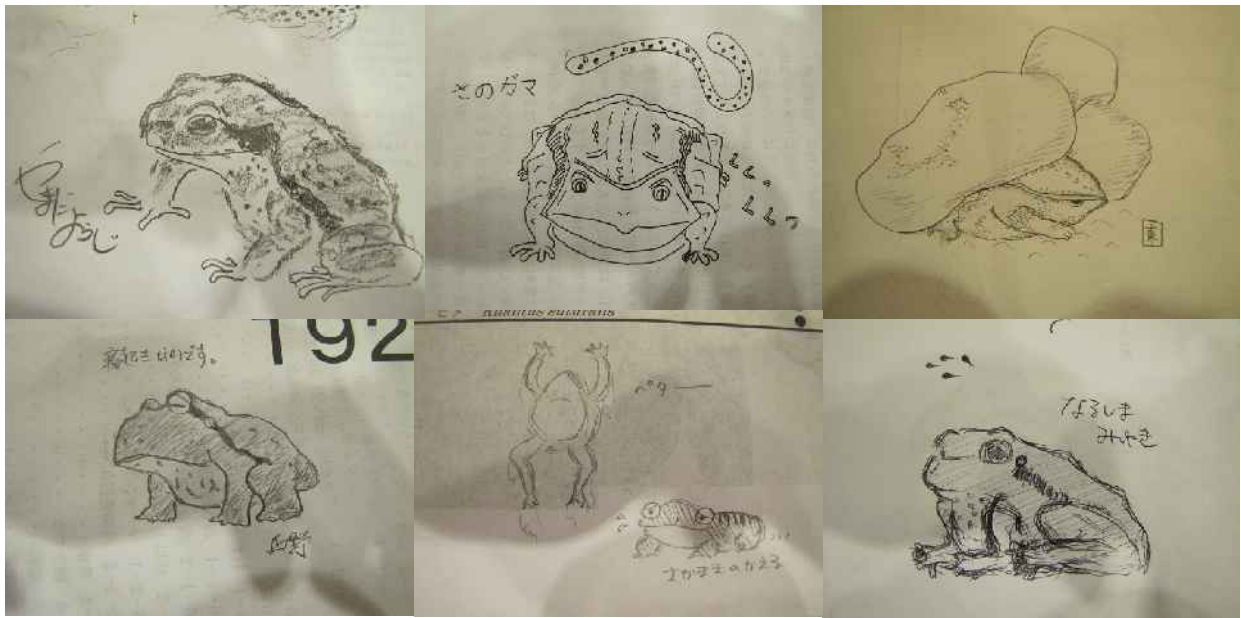
ところだから！」

佐野:「はい...(笑)」

最近の座談会に若干の“やらせ雰囲気”を感じている読者の方もいるかもしれない…。しかしそこは気にせず読んでいただきたい。

山田:「俺できたよぉ」

描き始めて5分が経過しただろうか。全員描き終わりそれぞれの力作(?)を公開することにした。それがこれである



成島:「山田さんは上手すぎますよぉ!(笑)」

坂巻:「ホントだ! 凄ぉい!!」

さすが山田氏である。絵ばかりかサインまで上手すぎる。

坂巻「生き物のかたちを知るためには絵で描くことが大事ですね」

西野「描いて始めて気づく生き物の特徴とかありますよね!」

すばらしいコメントだと佐野は思った。両氏の発言こそ、まさに本座談会の“まとめ”と言える。

しかしそこでラストを譲らないのが、我らが切り込み隊長山田陽治氏である。

山田氏はハイセンスなボケを混ぜこんだ“まとめ”を東浦氏(なぜか?)にキラーパスで投げかけたのだ。それは東浦氏のツッコミを期待したパスであり、歴史的即席コントになりうる瞬間であった。しかし純粋無垢な東浦氏は...

東浦:「へえ~!! そうなんですか? なるほど!!」

山田:「...」

一同:「...」

佐野:「素直か！真に受けちゃった！」

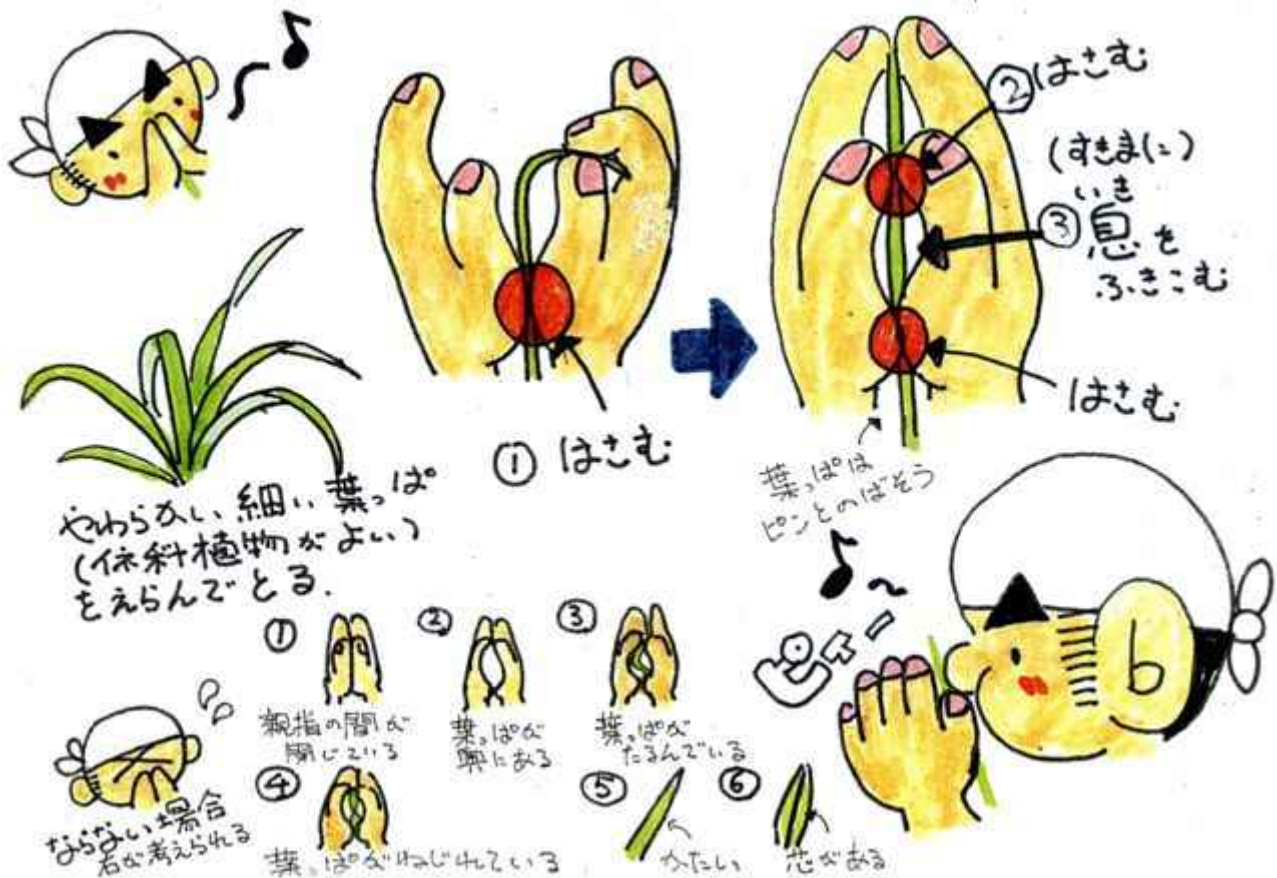
その後、山田氏は同じボケを繰り返し東浦氏に投げかけたが、結局最後まで彼女に届くことはなかった...

ちなみに山田氏が放ったハイセンスなボケ発言とはどのような内容であったのか。不本意ながら内容を忘れてしまった佐野は、後日その場にいたメンバーに聞き込みをおこなった。しかし残念すぎることに誰一人覚えていないという始末であった。

こうなると山田氏のハイセンスなボケをどうしても知りたい読者の方もいるであろうが、疑われないでいただきたい。真のハイセンスとは、印象薄く人の記憶に残らないものなのだから！(?)

『森の遊び人・山田陽治の自然遊び講座』 第2回 草笛(キジ笛)

春はいろんな葉っぱが出てきたばかりでやわらかく、草笛に向いている季節と言える。その中でも最も音のよいキジ笛を紹介します



『モリゾー・キッコロ森へいこうよ！』(NHK教育)土曜 07:15~07:30(再放送 木曜 15:45~16:00)
放送日時がかわりました



それゆけ
” 激突！ やまだくん ~海外渡航編~

完全復活！？



「ノープロブレム バングラデシュの巻その2」

何よりも海外に行くにはパスポートが必要だ！と、誰よりも知っている(前回の韓国行きの際にパスポートを忘れたから)山田はパスポートを握りしめ、皆に見せつつゲートをくぐった...「ビコーン！」「げっ！」なんだ！オレが何かしたか！？と、心の中は激しく動揺しながらも何度もゲートをくぐる...ベルトをはずしたし、財布も出した...金属探知棒で探られるが何も無い。

どうしたわけかチェックでひっかかったまま次に進めないのだ(汗)。

パスポートを調べられると、M先生は「危険人物は国外に出してもらえないんじゃない？」と言い放った。

きっと、これが期待に応えるってやつなのか？...実際は「またか？」くらいにしか思われてないのだろうが...

係員がボクの肩掛けかばんを逆さにすると、トン！とナイフ(オルファのクラフトナイフ)が落ちた。

みんな「あ〜っ！！！」

入れた覚えがないナイフが入ったままになっていた。これが原因だったようである。

「早く、手続きしてきな！」と言われ、慌てて預けに行く。小さなナイフに大きな仰々しい段ボール箱に入れられボクとは別にバングラデシュに行くことになった...ホントは成田空港で預かってほしかったのだがダメだった。

さて、みんなのところに戻ろうとしたが、正規の入り口ではなく係員入り口から入ってくれと言われ、そちらに回ったら、スチュワーデスさんの列...スチュワーデスさんに混じて、一人ピーサン男も並んで入るのだった。

やっと、飛行機に搭乗...日本を出発するのに2回も費やした、「期待に応える男」やまだくんはバングラデシュにたどり着けるのか？
つづく

(森の遊び人・やまだようじブログ) <http://ameblo.jp/yohji46>

(Twitter「yamadayohji」) <http://twitter.com/yamadayohji>



細野 菜

朝夷奈の森通信 ~ 風の忍者より ~

飯村優介

2月に入り、本州南海上の低気圧による雪や雨、春一番の南風、春のキノコ、山菜シーズンが動き始める。

朝比奈、周辺の発生の目安をまとめてみた。

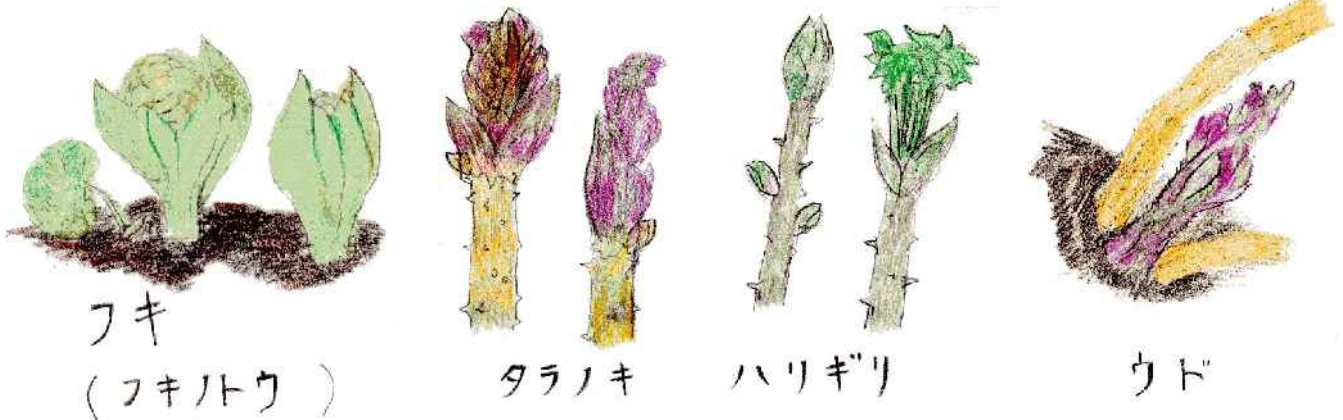
フキノトウが伸びてくる時季と天然シイタケ春子の発生。天然エノキタケも盛りになる。

ニワトコやカンゾウが3月に入り伸びてくる。

桜の開花は最大の目安である。タラノキ、ハリギリの美味しい木の芽の初物と重なり、アミガサタケ類とハルシメジの早い物も出始める。

木の芽のピークは桜が満開の頃だ。

花吹雪になる頃、ウド、ゼンマイ、ワラビが地上に出てくる。ツリガネニンジンやソバナ、ヨモギ、セリ等、人気の野草も食べ頃となる。生育条件により時期にズレがあるため、フィールドを広く良く知ると旬も長く楽しめる。



侍
従
川
フ
ォ
ト
ギ
ャ
ラ
リ



ミ
シ
ロ
西
澤
博
厚
氏
撮
影

佐野真吾が語る侍従会の思い出 ~子ども会議~

“横浜の水辺と緑を考える子ども会議”というイベントがあります。横浜中の小・中学校や市民団体が集まり、ブースを出して自分たちの活動報告をしたり交流をおこなったりするイベントです。そして、午後は参加団体の子どもたちが集まって“自然”や“生き物”について話し合いをするのです。

2001年3月のある日、春休みを満喫していた私(当時中学1年)に、隊長山田さんから電話がかかってきました。「もしもしサノシン？子ども会議っていうイベントに侍従会で参加する予定なんだけど空いてる？生き物展示と話し合いをやるんだけど、サノシンお願いできない？」とまあこんな電話であったと思います。相変わらずイメージの湧かないお誘いでしたが、以前生き物展示のイベントで出会った尾上先生や伊藤先生ほか、生き物好きの先生たち(ダボハゼ通信8号より)も参加するとの話を聞いて私は喜んで参加を決めました。

3月25日、“横浜の水辺と緑を考える子ども会議”当日、会場である東京ガス環境エネルギー館に到着した私は、想像していた以上の参加者の多さに驚きました。数百人はいたでしょうか。開会式が終わり、私は侍従会のブースで、家から持ってきた自慢の生き物の展示を始めました。すると尾上先生や伊藤先生ほか、生き物好きの先生たちがすぐに声をかけてくださいました。「佐野ちゃん！5月になったら千葉の田んぼに行こうよ！佐野ちゃんが採りたい虫もいっぱいいるから！」私にとって、自分より何倍も生き物に詳しい先生たちは憧れであり、そんな人たちと生き物の話しをできることは、心底ワクワクし、大きな刺激を感じられるこの上ない喜びだったのです。こうして私は満足感にホクホクしながら午前中の展示を終えました。

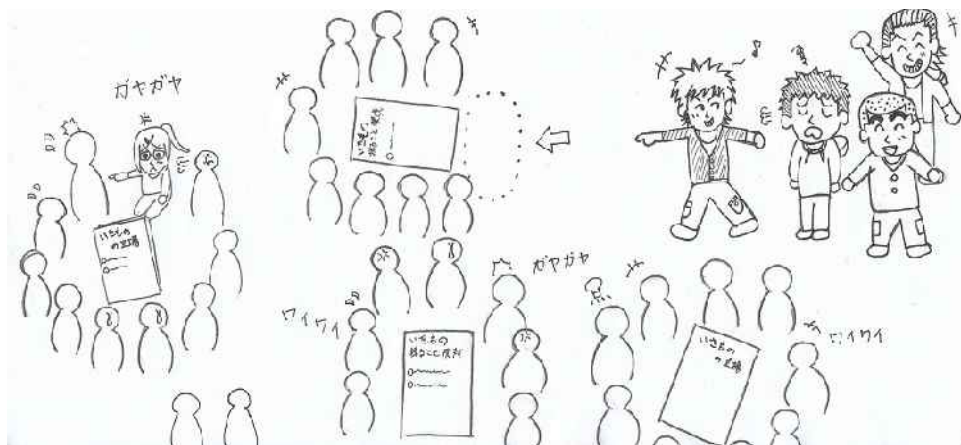
そしてお昼休み、てっきりこれで終わりと思っていた私に山田さんは言いました。「午後は討論会をやるんだけど、サノシンはどんな立場に入ってもらおうかなあ？」「え？討論会？...」「そうだよ！小学生に混ざって侍従会の力をアピールするんだ！！」「ええー！？」当初私は“話し合い”とだけ聞いていたので、大人に混ざって、「生き物を守るためにはどうすればいいだろうか？佐野くんの意見を聞かせてください。」といった感じの大人がするようなカッコいい話し

合いをイメージしていました。ところが本当は“小学生に混ざって”、“討論会”...、だったのです。私のテンションが急激に低下したのは言うまでもありません。そもそも中学生の分際で大人の話し合いに誘われるわけがないのですが、子どもの思い上がりは怖いものです。こうして私は侍従会学生部軍団の一



員として侍従会をアピールすべく、渋々討論会がおこなわれる会場に向かったのです。

会場には横浜の各地から集まった大勢の小学生が集結していました。後に仲間となる会員の成島さんもその中にいたようですが、それを知るのは5年も先のことです。討論会のテーマは確か“生き物を採ることは良いこと



か？悪いことか？”というような内容であった覚えがあります。虫とりが生きがいである私にとって、悪いわけがあるか？答えが出ているのに何を話し合う必要があるんだ？と、改めて考える必要性を感じず、自分の中で勝手な答えを出してしまい、ちゃんと討論会に参加しなかった記憶があります。

生き物に対しての強いプライドと頑固さはこのような場面で逆方向に進んでしまったのです。結局討論会には真面目に参加しなかったため、内容はあまり覚えていません。ただ、今思うと山田さんや先生たちは、私たち子どもたちに、少ない知識や経験に凝り固まらずに、たくさんの声を聞いた上で、結論にいたらず考えてほしかったのだと思います。子どもは大人に聞かされたことを「そうなんだ！」と鵜呑みにしてしまうものです。そして分かっているつもりになってしまうのです。

2011年3月27日、今年も“横浜の水辺と緑を考える子ども会議”がおこなわれます(編集部注:地震のため延期となりました)。侍従会の小学生・中学生も参加して、外来生物(他地域から人の手で持ち込まれ野生化した生物のこと)について討論会をします。“外来生物の駆除”や“国内間の生物移入問題”といった大人でも難しい問題がたくさん詰まった議題ですが、“良い悪い”を決めることのできない面白い議題でもあると思います。正しい知見を得て結論に急がず考え続けるきっかけとなってほしいです。

『佐野真吾が語る侍従会の思い出』つづく

侍従川定例調査報告 学生部

12月26日(日) 晴れ 13:15~15:15

カモ飛来調査 & ワカメ植栽

調査 & 作業者: 埜田匡、深沢大地、石松みさき、山田陽治

【諏訪橋】(下流域)

ヒドリガモ 5 5、オナガガモ 1、コサギ 1

【侍従橋】(下流域) オナガガモ 7 6

【汐見橋】(下流域) ユリカモメ 4

【新川橋】(下流域)

ヒドリガモ 7 9、ホシハジロ 2、ユリカモメ 3、トビ 4、ハシブトガラス 1

ちとせ園~六浦2号橋(中下流域)では、今回カモを見なかった。

(コサギとハクセキレイは確認)

内川橋~平潟橋でもカモを見なかった。



汐見橋での水棲生物: タテジマイソギンチャク、マガキ(護岸だけでなく、コンクリート片にもついてた)、コウロエンカワヒバリガイ、カサガイ?の一種、イソコツブムシ、チチュウカイミドリガニ、チチブ

水質浄化のためのワカメ栽培実験

12/26(日)汽水域である雪見人道橋付近(侍従川河口域)で、水質浄化を目的にワカメの栽培を始めました。陸上植物と同じように、海藻類も窒素(N)やリン(P)を栄養として吸収し育ちます。ワカメが枯れる前に川からあげて、人間が食べることでそれらの栄養塩が川からなくなり、水がきれいになるというわけです。

ロープにワカメ種苗をとりつけました(最大20cm ぐらいのワカメ)。

参加者...石松、深沢、山田

1/31...滑落したのものもありましたが、最大50cm ぐらいに成長。

2/18...あれだけあったワカメがなくなっていました。

(残っていたのは5株で大きく育った物は1株)

原因として、ワカメを入れる時期が遅かった。いたずらされたか釣り上げられたかでロープが表層に出ていた。侍従川河口域でワカメ



が育つことがわかったので、来年度は対策を講じてみんなで食べられるようにしたいですね。

2月27日(日) 晴れ

長潮 満潮 03:18(131cm) 10:41(137cm) 干潮 06:23(126cm) 19:50(49cm)

参加者:阿部、深沢、長崎、石渡、石黒、尾池、徳竹、金子、成島、佐野、瀧本、山田

【ちとせ園】(中流域)

生物:チチブ3、ウキゴリ1、シマヨシノボリ4、メダカ7、テナガエビ6、ミゾレヌマエビ1、ミズムシ1、コシボソヤンマ(幼虫)3、ハグロトンボ(幼虫)3、シオカラトンボ(幼虫)3、カワニナ1

【長島橋】(中流域)

生物:チチブ7、メダカ7、ボラ3、テナガエビ13、ミゾレヌマエビ3、クロベンケイガニ1、ヤマナサエ(幼虫)1、ハグロトンボ(幼虫)3

【大道東橋】(中下流域)

生物:コイ

【諏訪橋】(下流域)

生物:ヒドリガモ10、ボラ5

備考:粗朶の設置とともに行った。

六浦二号橋より上空にミサゴ発見。



2/27(日)午前中のホタル生息地整備で伐採された枝で作られた粗朶を、午後侍従川に子どもたちと設置をしました。

参加者:阿部、深沢、長崎、石渡、石黒、尾池、徳竹、金子、成島、佐野、瀧本

土砂が堆積しているところに設置し、土砂の掘削を防ぐとともに、エビなどの生き物が枝と枝の隙間に棲みつくことを狙いました。

ちとせ園前、長島橋、大道東橋、諏訪橋に設置しました。エビなどがたくさん見られるといいですね。



事務局だより

事務局運営委員 長橋 輝明

4月以降の活動予定

4/10(日) 春の草摘み&野草料理 9時~15時頃 9時 大道小学校集合

参加費 ¥100(非会員 ¥200)

4/23(土) 葦船乗船会 共催:大道小学校

9時~15時...乗船会は11時頃から15時頃

9時大道小学校または11時関東学院カヌー漕艇場集合

4/24(日) 定例クリーンアップ 9時~12時 ちとせ園集合 雨天延期...翌週日曜

5/8(日) 春の潮干狩り&干潟の生き物観察会

9時~15時頃 9時 野島青少年研修センター・未来のたまご集合

5/22(日) 定例クリーンアップ 9時~12時 ちとせ園集合

活動の詳細(持ち物など)は
ホームページをご覧ください。

<http://jijyukai.web.fc2.com/>

学生部の活動

4/16(土) 学生部新入生歓迎遠足 9時~16時頃 9時 京急金沢八景駅改札内集合

4/24(日) 侍従川定例調査 13時~16時半頃 ちとせ園集合

パタゴニア・ベイサイド・アウトレット アースデイイベント 共催イベント

4/30(土) グラスルーツ(店頭でのワークショップ) 11時~16時

5/28(土) 野外イベントin侍従川 10時~15時

問い合わせ パタゴニア・ベイサイド・アウトレット 045-778-1205

侍従会は「2010年全労済地域貢献助成事業」の対象団体です。

2011年度会費納入のお願い

4月から新年度になります。新年度分の会費の納入をお願いいたします。現金での支払いは間違いのもとになりますので必ず同封の郵便局払込票で支払ってください。

口座記号番号:00230-5-68634 加入者名:ふるさと侍従川に親しむ会

年会費:学生部・ジュニア1,500円 大人3,000円 納入期限:2011年4月28日

ふるさと侍従川に親しむ会 事務局 長橋 輝明

TEL&FAX:781-4042 e-mail:jr-nagahashi@seaple.icc.ne.jp

編集後記 東北地方太平洋沖地震の被害に遭われた皆さまには謹んでお見舞い申し上げます。この会報を読んで、ひとりでも多くの方々の元気が出ますように。(MK)